



三浦敏弘教授

三浦敏弘教授 履歴・社会活動・研究業績

略 歴

[学 歴]

- 1977年3月31日 関西大学社会学部社会学科 卒業
- 1979年3月31日 大阪体育大学体育学部学校保健体育学科 卒業
- 1995年3月31日 佛教大学大学院教育学研究科生涯教育学専攻修士課程 修了
- 1995年4月1日～1997年3月31日
兵庫医科大学大学院医学研究科研究生
- 2001年4月1日～2002年3月31日
大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程
- 2008年3月31日 神戸学院大学大学院人間文化研究科人間行動論専攻博士後期課程 所定単
位修得後退学

[学 位]

- 1995年3月31日 修士（教育学）佛教大学
「高齢化社会に対する青少年の健康観に関する一考察——大学生の健康意識と生涯体育との関連性——」

[職 歴]

- 1979年4月1日 明治鍼灸短期大学 助手
- 1980年9月1日 明治鍼灸大学 助手（鍼灸学部）
- 1989年4月1日～1997年3月31日
明治鍼灸大学 専任講師（鍼灸学部）
- 1997年4月1日 関西大学 助教授（文学部）
- 2001年4月1日 関西大学 教授（文学部）
- 2010年4月1日～2023年3月31日
関西大学 教授（人間健康学部）

[主な所属学会及び社会的活動等]

日本体育・スポーツ・健康学会／日本体力医学会／日本生理学会／日本疼痛学会／日本スポーツ
社会学会／日本運動生理学会／日本武道学会／日本武道学会関西支部学会／大阪体育学会（理
事）／身体運動文化学会 関西支部（理事長）／身体運動文化学会（常任理事）／関西教育学会
／西日本臨床スポーツ医学研究会／全日本鍼灸医学会／関西臨床スポーツ医学研究会／

研究業績

専門分野 体育学、応用健康科学

著書

1. 触覚の復権—地域社会と共存の教育システム—体育と生涯教育の関連から、共著、2002年3月、伴義孝、三浦敏弘、溝畑寛治、田村典子、雑古哲夫、人体科学関西ワーキンググループ編、211-216頁
2. 自己を語る 身体表現、共著、2007年4月、三浦敏弘、谷祝子、前林清和、内田樹、安田忠典、伴義孝、小田慶喜、菅原福子、中川昌幸、三宅真里、冬弓舎、239-248頁
3. 現代人にとって健康とはなにか、分担執筆、2011年4月、(監修)竹内洋、(編集)杉本厚夫、森下伸也、金子絵里乃、西山哲郎、書肆クラルテ、第5章、48-57頁

学術論文

1. 視床内側核群の侵害受容ニューロン、共著、1990年6月、川喜田健司、金盛聖三、中園義孝、三浦敏弘、明治鍼灸医学、査読有、第5号35-41頁
2. 鍼灸刺激で誘発される局所炎症反応、共著、1991年4月、川喜田健司、岡田薫、鍋田智之、北小路博司、三浦敏弘、明治鍼灸医学、査読有、第7号73-77頁
3. 医療系大学および私立文系大学の新入生における健康意識・疲労自覚・体力・運動能力の調査的研究、共著、1991年4月、三浦敏弘、市川哲、明治鍼灸医学、査読有、第7号93-106頁
4. 鍼灸刺激で誘発される血漿漏出現象、共著、1991年5月、川喜田健司、金盛聖三、中園義孝、三浦敏弘、医学のあゆみ、査読有、Vol.153、No.7、389-390頁
5. 鍼灸刺激で誘発される局所炎症反応、共著、1991年5月、川喜田健司、岡田薫、鍋田智之、三浦敏弘、北小路博司、医学のあゆみ、査読有、153巻7号389-390頁
6. 実験的遅発性筋肉痛でのストレッチング効果、共著、1991年6月、三浦敏弘、川喜田健司、北小路博司、人見智、西日本臨床医学、査読有、2巻11号133-136頁
7. 実験的遅発性筋肉痛に対するストレッチングの効果、共著、1991年6月、三浦敏弘、川喜田健司、北小路博司、人見智、西日本臨床スポーツ医学研究会報告集、査読有、133-136頁
8. Deep pain measurement at tender point by pulse algometry with insulated needle electrodes、共著、1992年5月、川喜田健司、三浦敏弘、岩瀬善彦、査読有、235-239頁
9. 生涯学習社会とスポーツ、共著、1994年10月、市川哲、三浦敏弘、明治鍼灸医学、査読有、14号57-63頁
10. これからの大学体育のあり方—体育施設、体育組織、保健体育教育のあり方等について—、共著、1995年3月、雑古哲夫、中川昌幸、三浦敏弘、岩田家正、伴義孝、関西大学一般教育等研究センター報、査読無、19号125-166頁
11. 健康意識と体力に関する一考察—大学生の健康意識と体力状態との関連から—、単著、1995年3月、佛教大学大学院論集、査読有、23号120-137頁
12. 日吉町における住民の地域スポーツ参加の実態、共著、1995年10月、市川哲、三浦敏弘、明治鍼灸医学、査読有、第16号13-20頁

13. 健康と体育教育の背景と現状—高齢化社会における生涯学習スポーツとの関連から—、単著、1998年3月、関西大学一般教育等研究センター報、査読無、24号、21-28頁
14. 生涯スポーツ事業の行政評価—京都府船井郡6町における事業の実態と担当者の意識—、共著、1999年7月、市川哲、三浦敏弘、関西教育学会紀要、査読有、第23号296-300頁
15. 生涯スポーツにおける地域社会と大学—地域社会と大学の密着と共存—、共著、2000年3月、三浦敏弘、木村章二、白藤一郎、笈田欣冶、関西大学文学論集、査読有、第49巻第4号87-141頁
16. ダンスエクササイズ指導者のプログラム構成からみた運動強度の分析、共著、2000年10月、三浦敏弘、小田慶喜、関西大学文学論集、査読有、50巻1号147-163頁
17. 日常生活における身体運動の継続習慣形成が血圧に与える影響、共著、2000年12月、三浦敏弘、小田慶喜、関西大学文学論集、査読有、50巻2号149-176頁
18. スクワット姿勢を制御する膝関節屈曲に関する研究、共著、2001年3月、三浦敏弘、小田慶喜、関西大学文学論集、査読有、50巻2号53-71頁
19. 登山活動における運動強度評価の再現性についての研究(その1)、共著、2001年3月、三浦敏弘、小田慶喜、関西大学文学論集、査読有、50巻4号77-102頁
20. ダンスエクササイズを専門とするインストラクターの傷害に関する研究、共著、2001年10月、三浦敏弘、小田慶喜、関西大学文学論集、査読有、51巻2号21-39頁
21. フィットネス施設の充実度に関する研究—都市型フィットネス施設の評価例—、共著、2002年1月、三浦敏弘、小田慶喜、関西大学文学論集、査読有、51巻3号47-59頁
22. モーターサイクルスポーツ選手のトレーニング処方に関する研究—モーターサイクルスポーツにおけるレーサーの心拍数分析—、共著、2002年3月、小田慶喜、三浦敏弘、川口悦弘、身体運動文化論攷、査読有、創刊号73-84頁
23. 障害者スポーツの運動処方に関する研究—車いすマラソン競技者の運動中の温度変化について—、共著、2002年11月、三浦敏弘、小田慶喜、関西大学文学論集、査読有、第52巻2号31-41頁
24. 相撲初心者の決まり手に関する研究、共著、2003年3月、小田慶喜、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、2号41-155頁
25. 大学が提供する教養講座(保健・体育分野)に関する研究—生活習慣改善に関する公開講座としての取り組み—、共著、2003年3月、小田慶喜、三浦敏弘、関西大学文学論集、査読有、第52巻4号49-68頁
26. 野外教育における森林レクリエーションプログラムに関する研究—山野実習の一環として実施したレクリエーション実践例—、共著、2004年3月、小田慶喜、三浦敏弘、中野友博、伴義孝、身体運動文化論攷、査読有、3号95-110頁
27. アメリカにおける柔道の変遷に関する研究、共著、2005年1月、三浦敏弘、小田慶喜、関西大学文学論集、査読有、第54巻第3号133-144頁
28. アメリカ・カリフォルニアにおける柔道と文化—Fresno Judo Club—、単著、2005年3月、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、4号133-144頁
29. 健康・スポーツ・トレーニングに関わる学生相談内容の分析研究、共著、2005年3月、小田慶喜、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、4号111-132頁
30. 大学体育における授業開発と社会貢献—多元的柔構造教育環境と新しい大学機能の創出—、

- 共著、2006年3月、伴義孝、三浦敏弘、雑古哲夫、田村典子、溝畑寛治、安田忠典、中川昌幸、大阪体育学研究、査読有、第44巻33-46頁
31. 身体感覚を言葉で表現する言語活動に関する研究—宮沢賢治のオノマトペを中心として—、共著、2006年3月、小田慶喜、池田みよし、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、5号51-66頁
 32. 身体感覚を表現する文化の研究—身体運動文化における説話の影響を考える—、共著、2007年3月、小田慶喜、加藤有香、小田和子、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、6号153-175頁
 33. Evaluating Tactile Sensitivity Adaptation by Measuring the Differential Threshold of Archers、共著、2007年3月、K. KOTANI、S. ITO、T. MIURA、K. HORII、Journal of Physiological Anthropology、査読有、26号144-148頁
 34. マレーシアにおける身体運動文化としてのスポーツ教育の研究—マレーシアにおける特色あるスポーツ種目の理解—、共著、2008年3月、ノール・アザリナ・ビンティ・ブアン、小田慶喜、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、7号、199-207頁
 35. 教育における釣り文化の研究—海洋実習プログラムとしての釣りを考える—、共著、2009年3月、小田慶喜、三浦敏弘、園田浩一、身体運動文化論攷、査読有、8号429-452頁
 36. 野外教育に関する授業研究の実践—登山における生理的指標を安全管理に活かす取り組み—、共著、2010年3月、小田慶喜、三浦敏弘、中野友博、身体運動文化論攷、査読有、9号111-126頁
 37. 医療福祉連携が抱える課題—兵庫県A市における医療福祉連携医療の把握—、共著、2011年3月、小田虎賢、小田和子、小田慶喜、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、10号129-159頁
 38. 障害者スポーツ支援研究 障害者スポーツ研究からアダプテッドスポーツへの展開—学生に提供する資料を考える—、共著、2011年3月、三浦敏弘、小田慶喜、人間健康学研究、査読無、1・2号合併号1-10頁
 39. コミュニケーションと自己概念形成に関する体験学習プログラムの開発、単著、2011年3月、三浦敏弘、身体運動文化フォーラム、査読無、第6号55-65頁
 40. 健康を支援するスポーツ文化研究—アダプテッドスポーツ理解への授業研究—、共著、2011年11月、三浦敏弘、小田慶喜、人間健康学研究、査読無、3号19-29頁
 41. 身体運動文化における自然活動の教材研究—環境教育導入としてのオニバス調査—、共著、2012年3月、小田龍聖、小田慶喜、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、11号111-128頁
 42. 自然活動におけるプログラム展開に関する研究—スノーシューを利用したトレッキングプログラム—、共著、2013年3月、小田慶喜、三浦敏弘、人間健康学研究、査読無、5・6号合併号31-38頁
 43. 学生を中心とした医療・保健・福祉分野における継続的な地域貢献活動の基盤づくり、共著、2013年3月、小田慶喜、三浦敏弘、梅本静香、身体運動文化論攷、査読有、12号65-109頁
 44. 身体運動文化における環境教育の教材研究—自然景観の変化を継続的に理解する取り組み—、共著、2014年3月、小田慶喜、三浦敏弘、小田龍聖、身体運動文化論攷、査読有、13号86-106頁
 45. 自然活動におけるプログラム展開に関する研究Ⅱ—スノーキャンププログラムの可能性—、

- 共著、2014年12月、小田慶喜、三浦敏弘、人間健康学研究、査読無、9号11-21頁
46. スポーツ・体育の領域を拡大する—関わる体育スポーツのあり方を考える—、共著、2015年3月、小田慶喜、三浦敏弘、身体運動文化フォーラム、査読無、最終号51-63頁
47. 身体運動文化における感性を刺激する取り組み—保育現場における壁面構成の活用—、共著、2015年3月、小田和子、小田慶喜、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、Vol.141-15頁
48. 青少年期の運動継続に関する研究—大学生のアンケート調査を中心に—、共著、2016年3月、松村雅代、小田慶喜、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、16号143-154頁
49. 新たなスポーツ文学の取り組みを考える—スポーツ文学講義の可能性—、共著、2017年3月、小田慶喜、小田龍聖、三浦敏弘、身体運動文化論攷、査読有、16号129-147頁

項目執筆

身体運動文化領域研究会の歩みと今後の展望、単著、2010年2月、三浦敏弘、大阪体育学研究、査読無、48号34頁

学会発表

1. 鍼灸刺激の末梢機序と局所炎症の関連、共著、1990年6月、川喜田健司、金盛聖三、三浦敏弘、中園義孝、全日本鍼灸学会雑誌、40巻2号149頁
2. ヒトの実験的遅発性筋痛モデルに対するストレッチングの効果、共著、1990年11月、川喜田健司、北小路博司、三浦敏弘、日本疼痛学会抄録
3. 実験的遅発性筋肉痛に対するストレッチングの効果、共著、1990年11月、川喜田健司、北小路博司、人見智、三浦敏弘、西日本臨床スポーツ医学研究会報告書、2号11頁
4. 鍼灸刺激の後部尿道の反射性活動に対する抑制効果、共著、1991年5月、北小路博司、鍋田智之、川喜田健司、三浦敏弘、全日本鍼灸学会雑誌、41巻1号63頁
5. 実験的圧痛点・硬結モデルに関する基礎的研究、共著、1991年5月、北小路博司、川喜田健司、三浦敏弘、全日本鍼灸学会雑誌、41巻1号37頁
6. 実験的遅発性筋痛モデル開発とストレッチング改善効果、共著、1992年10月、川喜多健司、三浦敏弘、体育の科学、43巻1号86頁
7. 全頭型脳磁計を用いた人間の脳活動の無侵襲計測、共著、1998年9月、小田慶喜、三浦敏弘、国際生理人類学会 Zagreb-Croatia The Fourth International Congress, p.49
8. 身体運動習慣の形成と血圧の変動について、共著、2000年11月、小田慶喜、三浦敏弘、国際シンポジウム2000身体運動文化学会、18-19頁
9. Influence of Active Life Style physical exercise on the blood pressure response、共著、2001年7月、小田慶喜、三浦敏弘、The newperspective of exercise and sports science, p.232
10. 野外活動としての森林レクリエーションプログラムに関する研究、共著、2002年7月、中野友博、小田慶喜、三浦敏弘、伴義孝、身体運動文化関西支部学会、8頁
11. Heart rate responses during 24 hours monitoring in primary school children、単著、2002年8月、三浦敏弘、国際生理人類学会、6th International Cngress on Physiological Anthoropolggy, p.33
12. Heart rate and blood pressure responses to equivalent power outputs on the bicycle ergometer、単著、2002年8月、三浦敏弘、国際生理人類学会、6th International Congress on Physiological

Anthropology, p. 51

13. 大学生の慣用語理解にみる日本人の身体図式について、共著、2002年12月、中川昌幸、安田忠典、小田慶喜、三浦敏弘、伴義孝、人体科学会第12回大会号57-58頁
14. ネイチャーシェアリングをねらいとした授業プログラムの研究、共著、2002年12月、小田慶喜、三浦敏弘、中野友博、伴義孝、桃井、人体科学会第12回大会号55-56頁
15. 大学体育における授業開発と社会貢献—マルチ柔構造教育環境の創出と具体化—、共著、2005年3月、伴義孝、三浦敏弘、安田忠典、大阪体育学会大会号16頁
16. 大学体育における授業開発と社会貢献(2)—具体的展開についての事例報告—、共著、2005年3月、安田忠典、伴義孝、三浦敏弘、大阪体育学会大会号17頁
17. 指先における力の弁別能力の評価—アーチェリー選手との比較—、共著、2006年6月、小谷賢太郎、伊藤政二、三浦敏弘、堀井健、日本生理人類学会誌、第55回大会号18頁
18. Evaluation of Possibility for Adaptation of Tactile Resolution by Measuring Differential Threshold Performed by Archery Athletes, 共著、2007年8月、小谷賢太郎、伊藤政二、三浦敏弘、堀井健、Accepted Journal of Physiological Anthropology, vol. 26 No. 2 p. 27
19. 身体運動文化を伝える教育の展開—身体運動文化を学ぶ方法をどのように考え教えるのか—、共著、2008年11月、小田慶喜、三浦敏弘、人体科学会第18回大会号27-28頁

研究報告

1. 住民を対象にした生涯スポーツの行政評価と参加者による学習評価に関する実証的研究、共著、1990年3月、市川哲、文部省科学研究費97-98継続補助金(一般研究C報告書)課題番号06610259
2. 過疎地の地域スポーツの健康教育学的研究、共著、1996年3月、市川哲、文部省科学研究費93-94継続補助金(一般研究C報告書)課題番号06610259
3. 近赤外分光法による運動筋酸素動態の評価、単著、1997年12月、三浦敏弘、運動生理学
4. 住民を対象にした生涯スポーツの行政評価と参加者による学習評価に関する実証的研究、共著、1999年3月、市川哲、文部省研究報告99年度(一般研究A 課題番号09610287)
5. Development on Program for Experience—Learning about the Formation of Communication and Self—、単著、2006年3月、三浦敏弘、身体運動文化論叢、査読有、第5巻、115-135頁
6. 生涯スポーツ研究ステーション計画の展開と具体的構想化、共著、2006年3月、伴義孝、雑古哲夫、田村典子、三浦敏弘、溝畑寛治、文部科学省科学研究費平成16年度—平成18年度継続、基盤研究(C)(2)課題番号16500387)、202-214頁